

研究主題 知識創造の力を育む授業（第3年次） ～プロセスの自覚を通して～

1 研究主題について

(1) 主題設定の理由

本校児童の抱える課題として、正答・結果重視の子どもの学習観を起因とする主体的・協同的な学びのプロセスへの意識の希薄さと、学んだことを活用・応用する力を十分に発揮できない実態がある。

これらの課題を克服するべく、2年間、「知識創造の力を育む授業」を研究主題とし、実践的研究を積み重ねてきた。その成果として、主体的・協同的に学習に取り組もうとする姿が多く見られるようになってきた。また、自分が獲得した知識を発展的に生かしていこうとする姿勢も出てきた。

だがまだ、試行錯誤の場面で躊躇したり、ぶつかる課題に受動的であったり、子ども同士のかかわりが希薄であったりするという側面もある。揺さぶられ、混沌とした中から、自分の力を信じ、主体的に生きる力の定着は充分ではない。

中央教育審議会は、2008年1月の答申で、21世紀を「知識基盤社会」の時代と位置づけ、理念を「このような社会において、自己責任を果たし、他者と切磋琢磨しつつ一定の役割を果たすためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力が必要である」としている。また学力の重要な要素は「①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力など、③学習意欲、であること」を明確に示している。

新学習指導要領においても「生きる力」を育むという基本理念は変わらない。今回の改訂では、この「生きる力」の理念の実現のために学校現場での課題を踏まえ、指導面での具体的な手だてを確立することをめざしている。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、これらを活用する思考力・判断力・表現力の育成をいわば車の両輪として、相互に関連させながら伸ばしていくことが必要とされている。

私たちは、これまでに述べた本校児童の課題を克服し、「知識基盤社会」において必要な確かな学力を育成するために、以下のような子どもの育成をめざすこととした。

主体的・協同的に学習に取り組み 獲得した知識を発展的に多様な場で活用・応用できる力を発揮する子ども

この子ども像に迫るための授業づくりを本研究の目的とし、研究主題「知識創造の力を育む授業」を設定し、第3年次として本年度も取り組む。

知識創造の力を育むことで、多様な課題解決場面において、獲得した知識を活用・応用する力を伸ばしていく。そうすることで急激に変化する社会状況に落ち着いて対応し、主体的・行動的に生きていくことができるようになる。このような力の育成を具現化する授業づくりを提案していくことにした。

(2) 知識創造の力を育む授業

知識
知識創造の定義

本研究では、知識を「経験の中から認知してきたものの総体」ととらえ、「知識創造の力」は以下のように定義づけている。

知識創造とは 想起された知識が表出・共有・結合によって新たな理解（有意義化）にいたる営みであり 発展的にはその新たな理解内容の活用・応用も含まれる

知識創造の力

また 知識創造の力とは この営みを主体的に展開させていく能力をさす

中央教育審議会答申
(2008. 1. 7)
「幼稚園、小学校、
中学校、高等学校及
び特別支援学校の学
習指導要領などの改
善について」

新学習指導要領告示
(2008. 3. 28)

めざす子ども像